



扉

著者	いとう たけひこ
雑誌名	東西南北
巻	2011
ページ	109-109
発行年	2011-03-18
URL	http://id.nii.ac.jp/1073/00001308/

コミュニティ支援への 理論的・実践的なアプローチ

知識創造共同体としての浦河べてるの家における当事者研究
—ナレッジ・マネジメント理論による分析

いとうたけひこ

「当事者が主人公」の実践のあり方を考える

—統合失調症当事者によるナラティブを手がかりに 小平朋江／いとうたけひこ

大学生に対するコミュニケーション・サポートの試行と課題

梅原利夫

3本の論文は、2010年度に終了した研究プロジェクト

「コミュニティ支援への理論的・実践的なアプローチ」の研究成果の一部である。

この共同研究は教育学と心理学、

それに近接領域である看護学などの協働により

「コミュニティ援助」について、歴史的・理論的に深めることと、

和光大学や各学校をフィールドとした実践にもとづくアクションリサーチを行い、
成果を公表することを目的としてきた。

いとう論文と小平・いとうの論考は、

北海道の精神障害者のコミュニティである浦河べてるの家の活動に
焦点を合わせたものである。

いとう論文では、そこでの当事者研究という実践活動が
知識創造理論で説明できることを述べた。

また、小平・いとう論文はナラティブを手掛かりに
当事者が主人公となる実践の特徴をあぶりだしている。

本研究プロジェクトは、

発達障害をもつ学生への学習支援の実施についても、

和光大学内での支援活動の議論も踏まえながら日常的に検討してきている。

梅原論文はその成果の一部である。

この論文は、大学における発達障害学生の援助をテーマに

2010年度に日本発達障害学会で開催されたシンポジウムが下敷きになっている。

「問題だらけで順調」を合い言葉に今後も研究を進めていきたい。

[いとうたけひこ]
